【研究主題】　子どもと音楽、子どもと子どもをつなぐ音楽科の鑑賞の授業を目指して
【副　　題】　図形楽譜と ICT を活用した授業の可能性

【所属校名】　滋賀県彦根市立旭森小学校
【職名･氏名】　教諭　　山口　麻衣子

＜主題設定の理由＞

合唱・合奏・音楽づくりなど、もともと音楽科の学習は、友だちと協働して学習しなければ成り立たず、自然と友だちと対話しながら技能を高めたり、新たな価値を見出し豊かな心を育んだりすることにつながる教科ともいえる。一方で、技能面などから音楽に対して苦手意識をもち、主体的に音楽と関わり学ぼうとする姿勢が弱い児童もいる。特に鑑賞の学習においては、音楽を聴くという行為の上に成り立つ学習なので、音楽に対して苦手意識をもつ児童は、何を手掛かりにして鑑賞したらよいのか分からなかったりただ聴くだけになってしまって面白さなど感じることができなかったりする。また、一人で聴いても鑑賞はできるので、なかなか友だちと協働して学習する場面も生まれにくくなることもある。しかし、鑑賞の学習においても、友だちと関わり、音楽に対して自分なりの思いをもち音楽を聴き、音楽に対する見方や考え方を広げていくことができると考える。そのような鑑賞の学習を実現していくためには、音楽の味わいを多媒体（身体表現や言語表現など）に表す活動を取り入れることが大切だと考える。本実践では、ICT を活用し、音楽の味わいを図形楽譜に表す活動を取り入れた実践を行い、具体の児童の姿を分析し、「子どもと子ども」「子どもと音楽」をつなぐ鑑賞の授業について考えたい。

＜内容と方法＞

タブレットを活用し、図形楽譜をつくる活動を軸にした音楽科の鑑賞の実践を行い、それぞれがつくった図形楽譜やグループ内での対話などの様子を記録し分析する。本実践で軸とする図形楽譜は、教科書に載っている旋律などの特徴を視覚的に分かりやすくするために表すものではなく、子どもが音楽を聴いて感じ取ったことや気付いたことを言葉ではなく色や形で表すものである。図形楽譜をつくる活動を軸にすることで、音楽を聴いてできた各々の内面にある思いや考えを、友だちが見ても分かるよう外側に目に見える形で表出することを目的としている。対象学年は６年生、教材はホルスト作曲「木星」で実践を行った。

＜結果と考察＞

（１）子どもと音楽をつなぐ図形楽譜

本実践では、「木星」を聴き、気付いたことや感じ取ったことを図形楽譜に表す活動を行った。

右図は、子どもがつくった図形の一つである。小さい山と大きな山がある。これは様々な楽器の音が重なり、重なる楽器が増えていくことで、音楽に深さや広がりが出てきたことを子どもなりに表現している。さらに、オレンジで示している線はとがっており、緑色や茶色で示した線は丸みを帯びている。これは、弦楽器のやわらかい音色、金管楽器の華やかで力強い音色を子どもなりに表現しており、重なっている楽器の特徴を知覚・感受している姿が見られた。このように、音楽から気付いたことや感じ取ったことを図形楽譜に直感的に表すことで、上手く言葉で表すことが苦手な子どもも、自分の思いや表現を表現するができた。

（２）子どもと子どもをつなぐ図形楽譜と ICT

それぞれがつくった図形楽譜について、タブレットを活用して子どもたち同士で共有し、なぜこのような表し方をしたのかをグループで話し合う活動を設定した。さらに、タブレットを活用し、それぞれに音源を配り、必ず音楽を聴いて確かめながら話し合いを進めるようにした。以下は、一つのグループを抽出し、子どもたちの対話の流れを記録した一部である。

C1：（D の図形楽譜を見て）これ、何。
D1：この音。一回止まって。ここ。
C2：ティンティンティン。
D2：鉄琴みたいな音が聴こえる。
E1：ああ。

このように、図形楽譜を手掛かりにして、子どもたちはそれぞれが聴こえてきた音の重なりについて音楽で確かめながら探究していく姿が見られた。グループで話し合っていく中で、音の重なりがなくなり静かになったところやアクセントによって強く演奏されている箇所から戦っている様子を思い浮かべていくといいたように、音楽を形づくっている要素と曲想を関連させて鑑賞していくこともできた。

＜成果と課題＞

ICT を活用し図形楽譜に表していく活動を通して、子どもたちは音楽に対する自分の考えを明確にして友だちと対話することで、より音楽的な見方・考え方を働かせて鑑賞をすることができた。一方で、楽曲の味わいを批評文に表す際には、個人差があった。学習の中で図形楽譜をもとに交流し、自分なりに楽曲を味わい深めていった姿が全て批評文の内容に反映されていたとは言い難い。やはり、子どもたちにとって楽曲の味わいを言語で表すことは図形楽譜に自分の考えを表出するよりも難しく、今後も言葉で表現していく力を育成することを目指して研究を進めたい。

○参考文献

小島律子(2011)「子どもが活動する新しい鑑賞授業 音楽を聴いて図形で表現してみよう」音楽之友社